

# モックンバード・ファミリーモデル 事業実行委員会

日本女子大学人間社会学部 准教授  
NPO里親子支援のアン基金プロジェクト 理事  
和泉広恵（いずみひろえ）

# 本日の議題

1. モックンバード・ファミリーモデル事業実行委員会立ち上げの経緯
2. 新しい里親家族支援の仕組みの必要性
3. モックンバード・ファミリーモデルとは
4. 現状と計画
5. 今後の流れ

# 1. モックンボード・ファミリーモデル 事業実行委員会立ち上げの経緯

## (1) 流れ

2008年：栗津美穂氏がシアトル児童福祉研修を企画。和泉を含む4名が参加、モックンボードファミリーモデルも含まれていた

2013年：IFCAを立ち上げた栗津美穂氏が、再度、シアトル児童福祉研修を企画。和泉を含む7名が参加、モックンボードファミリーモデルの導入を視野に入れていた

2015年－2016年：和泉が一年間、シアトルに滞在し、モックンボードファミリーモデルについての情報収集

## (2) 導入への試み

2013年以降、栗津氏を中心に、いくつかの地域で導入を試みる→説明会に留まり、それ以上進んでこなかった。

2013年の視察チームは、2014年度にモッキンバードマニュアルの勉強会を開催。IFCAは、関係者を巻き込み、マニュアルの翻訳作業に取り組む。



2016年に栗津氏、和泉を中心に、IFCAの事業として、何とか日本にモッキンバード・ファミリーモデルの導入を模索中。2015年度中に助成金等に応募

## 2. 新しい里親家族支援の仕組みの必要性

### (1) 里親委託数の増加

**2016年5月27日 児童福祉法改正案の可決**

[里親養育に関連する概要]

- ・ 児童ができる限り良好な家庭的環境において養育されるよう、必要な措置を講じなければならない
- ・ 市町村は、児童が心身ともに健康で健やかに育成されるよう…児童の福祉に関する係る業務を適切に行わなければならない

- 里親に関する普及啓発
- その相談に応じ、必要な情報の提供、助言、研修その他の援助を行うこと
- 乳児院、児童養護施設、児童心理治療施設又は児童自立支援施設に入所している児童及び里親相互の交流の場を提供すること
- 里親の選定及び里親と児童との間の調整を行うこと
- 児童の養育に関する計画を作成すること
- 養子縁組の相談、情報提供、助言その他の援助

## 施設に対する里親家庭への子どもへの委託率の変化

平成 <b>26</b> 年	16.5%
平成 <b>25</b> 年	15.6%
平成 <b>24</b> 年	14.8%
平成 <b>23</b> 年	13.5%
平成 <b>22</b> 年	11.5%
平成 <b>21</b> 年	11.0%
平成 <b>20</b> 年	10.3%

## (2) 里親支援の充実

平成23年度 里親支援機関事業

(都道府県・指定都市・児童相談所設置市)

里親支援機関 → 里親委託等推進員

平成24年度

児童養護施設・乳児院 → 里親支援専門相談員

平成21年度 養育里親・専門里親の手当の引き上げ

養育里親 (1人目) 34,000円 ⇒ 72,000円

専門里親 (1人目) 90,200円 ⇒ 123,000円



### (3) 支援に関する評価

措置変更数（施設・里親家庭への措置変更のみ）

平成18年度	6.	7%	平成26年度	6.	0%
平成17年度	7.	0%	平成25年度	5.	7%
平成16年度	7.	0%	平成24年度	5.	5%
平成15年度	5.	8%	平成23年度	7.	4%
平成14年度	5.	2%	平成22年度	7.	1%
平成13年度	6.	2%	平成21年度	9.	4%
平成12年度	5.	5%	平成20年度	5.	7%
平成11年度	4.	9%	平成19年度	5.	8%

## [里親支援の増加に関する評価]

措置変更率：12年以上前と同水準あるいは若干上昇傾向

○平成16年度から平成23年度までの措置変更の増加を抑制するのに寄与

●それ以前と比較すると、効果を上げているとはいえない

里親支援事業の増加が子どもの安全について、十分な成果を上げているとは言えないのではないか？



支援の仕方を見直す必要性

## (4) 支援とは

「普通の家庭」の強調と支援の拡充への要請

児童相談所・支援員 ⇒ 里親への支援 (一方向)

\* 里親の満足度は上がらない

\* どこまで支援をしたらよいのか

\* 「里親を支援すること = 子どもを支援すること」なのか

⇒ 支援員は何をどこまで支援をしたらよいかというジレンマ

「支援」とは何かがわからない

● 悪循環をどう防ぐか

## (5) 養育の質の確保

「措置変更」の上昇について

(「家庭」という密室による危うさ)

アメリカで問われるフォスターケアの問題

\* 里親と子どもが孤立化する

\* 子どもの安全性が脅かされる

\* 養育の負担が増大

➡ ライセンスというハードルと研修の強化では

解決できない課題

# 求められる養育の形

- ・ 措置変更を少なくする
- ・ 里親をリクルートしやすくする
- ・ 子どもの安全を守る

里親が「被支援者」から脱却

里親家庭をグループに開く（密室ではなく）

里親委託の仕方を変化

（グループのバランスによる委託）

委託は各家庭だが、子どもはグループの子どもとして、複数の家庭で見守る

レスパイトによって、互いの家庭を知る機会を得る  
→ 緊急レスパイトを減らす

### 3. モックンバードファミリーモデルとは

#### (1) モックンバードファミリーモデル

米国ワシントン州にある

NPOモックンバード・ソサイエティで考案

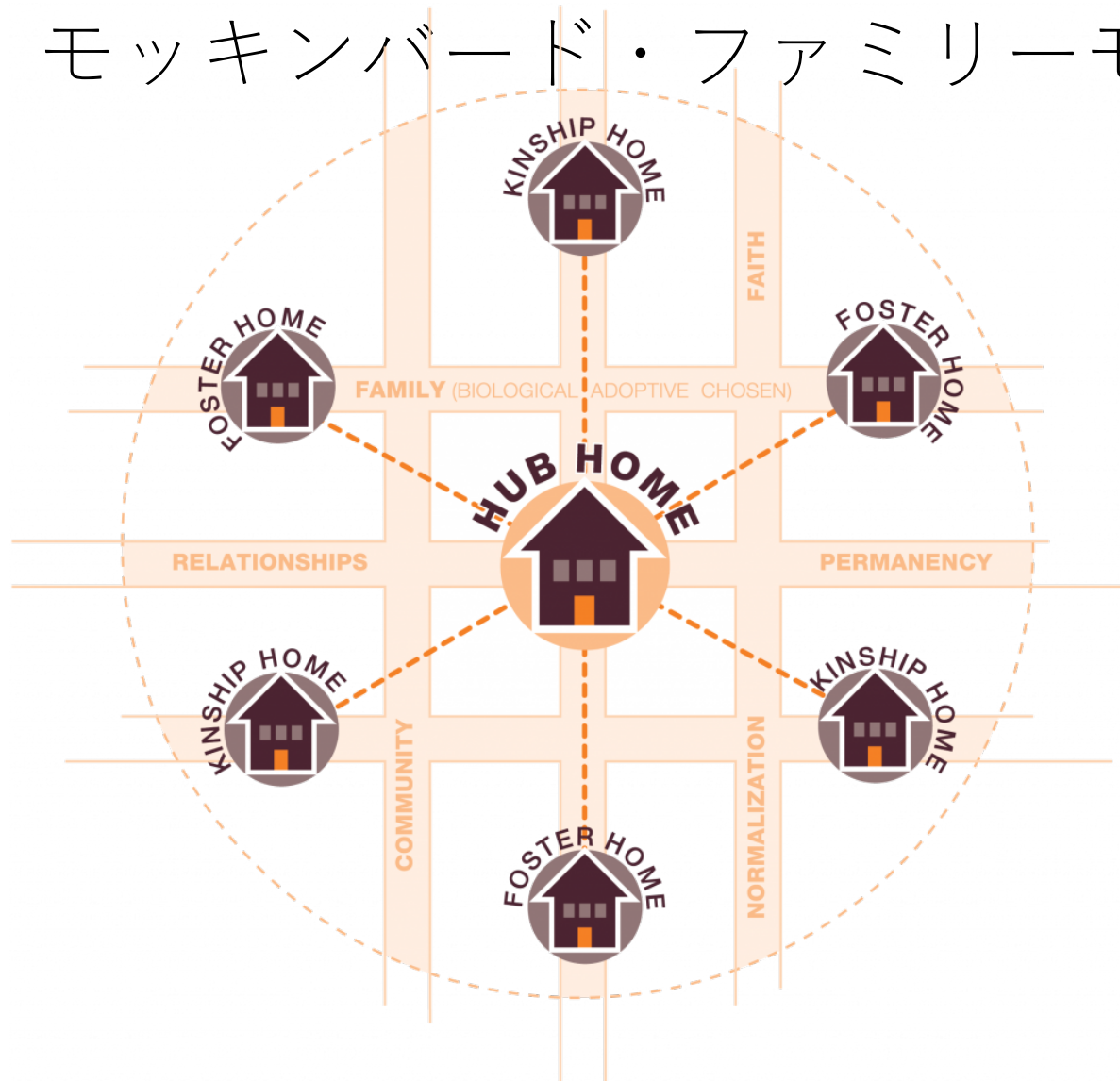
米国ワシントン州、他州、および英国で広く採用  
成果を上げている

ベテラン里親を中心とした小規模ネットワークによる

家庭同士の支え合いを基盤とした支援システム

Mockingbird Society (<http://mockingbirdsociety.org/>)

# モックンバード・ファミリーモデル



- ・ 限定された範囲に住む6～10家庭がグループを形成

- ・ 中心となる家庭（ハブホーム）は2ベッドの空きがある

- ・ 周辺の家はハブホームに子どもを預ける

- ・ ハブホームを中心に毎日交流する

## (2) モデルのコンセプト コンセプト = 拡大家族 (人工的に親戚関係を作る)

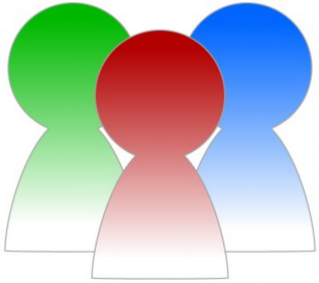
- ・ 里親同士、子ども同士が日常的に相談・交流することが可能 (孤立化を予防)
- ・ 他の家庭を知ることができる  
(風通しがよくなり、不適切な養育の防止になる)
- ・ 支援を一方向的に受けるのではなく、支援者になる
- ・ 複数の目で子どもを見守ることができる
- ・ きょうだい関係の継続
- ・ 一時的な避難所 (措置解除をしなくてもよい)
- ・ プチ家出と息抜き



### (3) ホスト機関（児童相談所等）の役割

- ・グループ内全体を把握し、適切な委託をする
- ・ハブホームと連携し、グループ内の里親と子どもについて把握し、適切なかかわりをもつ
- ・ハブホームと協力し、グループ内の関係性が良好に保たれるよう、調整する
- ・交流会の中で、子どもの様子を把握する
- ・地域の資源を有効活用できるよう、手助けする
- ・緊急時に対応

# 三層のネットワークによるサポート



グループ内のネットワーク



ハブホームとホスト機関からなるネットワーク



ハブホーム同士（+ホスト機関）のネットワーク

## モデルの有用性

### ①レスパイトについて

9割以上が「予定された(planned)」レスパイト



「予定されたレスパイトが増えると、緊急レスパイトは減少する」

### ②措置に関する決断について

措置の決断が難しいときの一時的な安全な場の確保

※いったん措置が変更されると、戻すのは困難

- ・ 里親と児童相談所の関係の変化

1対1の関係、一方的な支援の関係に変化をもたらす

- ・ 里親家庭の密室性を予防

他の家庭との関係性を深める：チームで子育て

- ・ 多様性を受けとめる

コミュニティに適した子ども委託と里親リクルート

## (4) 導入の道筋

- ①導入するエリアを決める
- ②ホスト機関とそれぞれの役割を決める  
リエゾン（調整役）を選び、その人が中心になる  
→別紙
- ③研修を行う（地域の特性、里親家庭のマッピングなどを含む）
- ④ハブホームの候補をリストアップし、説明会・依頼等を行う
- ⑤コンステレーションの選定  
➡ Go!

## (5) 成果

- 報告書：参照

## 4. 現状と計画

### (1) 現状

- ①関係者を集めて説明会を開いた地域
- ②説明会を開きたいと打診している地域
- ③打診はしていないが可能性がある地域

### 困難さ

- ・ 地方自治体の担当課、児童相談所、里親支援機関、里親のすべてが前向きにならないと進まない

## ◎説明会等で出された疑問、出されそうな疑問

- 「イメージができない（SOS子どもの村のようなシステムか）」
- 「ハブホームになれる里親がない」
- 「支援の方法について変える必要性を感じない」
- 「里親・ソーシャルワーカーの負担が増える」
- 「グループ内での関係性の悪化にはどう対処するのか」
- 「子どもの事故等が起きたときには誰が責任をとるのか（個別支援の方が責任の所在がはっきりするのではないか）」
- 「海外のシステムは日本に合わないのではないか」
- 「ホストとなる機関がないのではないか」
- 「里親数が少なく、グループ化するほど家庭を集められない」
- 「ハブホームに支払う予算の枠がない」
- 「里親同士の助け合いなら、すでに行われている」



## (2) 今年度の目標とミッション

### 実行委員会の目標

来年度、モッキングボードファミリーモデルを採用する自治体を最低一か所探し、構築に向けて準備を行う

## 実行委員会のミッション

- ①モックンバード・ファミリーモデルのディレクターの招聘事業
- ②各地でのモックンバード・ファミリーモデルの展開のための地域ごとの説明会の開催

モデルの導入には、児童相談所・里親会・自治体の協力が不可欠

※モックンバードファミリーモデルのマニュアルの翻訳

## ①について

- ・ ディゲール・クーパー氏の紹介
- ・ 予定されている事業

11月13日（日）午後の全国里親大会終了後

→ 会場を予約

11月9日（水）午後の日本財団

→ 会場予約

## ②について

個人的に説明をしにいくことは可能だが、モデルの実施を考えると、モッキンボードソサイエティの役割を誰が担うのか、日本側の窓口はどうするのかなどの課題が残る。

### (3) 予算について

助成金：IFCAが日本財団から100万円の助成

他の助成金は落選

現在、1つだけ残っている

→ 今後も可能性を求めて応募する

他の収入：講演会の参加費

※ 招聘事業にかかる経費が大きい

➡ どう解決する？

## 5. 今後の流れ

- ① 招聘事業のための準備  
(モッキンボードソサイエティとの交渉、ちらし作り等を含む)
  - ② 説明会開催のための準備
  - ③ マニュアルの翻訳
  - ④ 経費の獲得
- 等々

[idumih@fc.iwu.ac.id](mailto:idumih@fc.iwu.ac.id)

